

市川の叔母さん

渡会 克男

イエスさん わてを好いてます

一族の墓地から遠く離れた

イエスさん 強いよつてんに

海を見下ろす丘の上

わて弱いけんど 怖いことあらへん

叔母の十字架の脇には一本の百日紅の木

関西弁で讚美歌を歌う叔母のあだ名は

夏になると

『イエスさん』だった

若い血潮のように

神社仏閣が林立する京都から

あるいはキリストの胸から滴る血のように

市川に嫁いで来て

真つ赤な花が咲く

家族の中でただ一人

熱心なカソリック信者だった

「わてよりイエスさんのが好きだと、同じ

墓には入りたくないだと、このババア！」

「わてが死んだら丘に葬っておくれ」

眉を吊り上げ 叔母を殴った叔父

合掌する観音様のような形で

けれど 叔母の死後 蔵に籠った叔父が

焼き上がった喉仏の骨

叔母の一周忌に刻んだ墓碑銘は

遺言通りに叔母は葬られた

『愛しいイエスさん、此処に眠る』だった